

2020年度第3回(一社)日本生物物理学会理事会議事録

日時: 2020年12月19日(土) 14:00~16:55

場所: 大阪大学蛋白質研究所 会長室ほか(TV会議)

**出席者: 理事総数 17名 出席理事 15名 (代表理事を含む)**

代表理事(会長)	原田 慶恵	理事(副会長)	須藤 雄気
理事(副会長)	小松崎 民樹	理事	秋山 修志
理事	秋山 良	理事	大上 雅史
理事	岡田 眞里子	理事	上久保 裕生
理事	北尾 彰朗	理事	小島 清嗣
理事	古寺 哲幸	理事	寺川 剛
理事	西坂 崇之	理事	細川 千絵
理事	村田 武士		

**監事: 監事総数 2名 出席監事 2名**

監事	笹井 理生	監事	豊島 陽子
----	-------	----	-------

**オブザーバー:**

邦文誌編集委員長	高橋 聡
2021年度年会委員長	
欧文誌編集委員長	中村 春木
ウェブサイト編集委員長	宮田 真人
2020年度年会委員長	大澤 研二
関東支部長	
2022年度年会委員長	金城 政孝
東北支部長	田中 良和

**陪席者:**

学会事務局	向井 牧子
-------	-------

**議長:** 代表理事(会長) 原田 慶恵

**議事録作成者:** 古寺 哲幸

**報告事項：資料番号**

1. 2020 年度年会報告（大澤）：報 1
2. 2021 年度年会準備状況（高橋）
3. 2022 年度年会準備状況（金城）
4. 出版委員会報告（小松崎）：報 4
5. 男女共同参画・若手支援委員会報告（須藤）：報 5
6. 国際関連委員会報告（西坂）：報 6
7. 賞・助成金推薦委員会報告（須藤）：報 7
8. 地区報告

その他

**審議事項：**

1. 次期編集委員長候補・2021・22 年会誌編集委員候補の承認（小松崎）：議 1
2. 2021 年分野別専門委員の承認（小松崎）：議 2
3. 2021 年度事業計画（案）（原田）：議 3
4. 2021 年度予算（原案）（秋山修）：議 4
5. 出版委員会関連議題（小松崎）：議 5
6. 分子科学研究所学会等連絡会議構成員推薦について（原田）：議 6
7. 国際物理オリンピックからの寄付依頼について（原田）：議 7
8. 功労会員・終身会員の 신설について（上久保）：議 8
9. 生物物理サブグループについて（須藤）：議 9

その他

## 定足数の確認:

理事会の審議に先立ち、議長・原田慶恵氏より定足数の報告があった。

理事総数 17 名のうち、出席者 15 名により過半数を超えた。

## 報告事項:

### 1. 2020 年度年会報告

- ・ 大澤研二氏より、2020 年度（第 58 回）の年会について報告された。
  - 年会の会計について  
12 月 8 日現在の決算についての報告があった。収入は 1180 万円程度、支出は 1021 万円程度、結果として約 157 万円の黒字となった。  
会場費はなかったが、当日に利用するシステム（Confit、Zoom）の利用料が 200 万円程度かかった。
  - 参加者について  
今回の参加者数は 1124 名、一般の演題数（ポスター）は 560 件、シンポジウムでの演題数は 168 件であった。
  - アンケート結果について  
ポスター発表を行った回答者のうち 25%が動画も作成した。動画は、音声と映像で作った人が最も多かったことが述べられた。言語は、英語で説明している人が多く、字幕を使った人もいたことが述べられた。  
また、終了後のアンケートは 166 件の回答があったことが報告された。自分の発表意外にもシンポジウムやポスターを聴講した人が多かったこと、今回のオンライン形式の年会はよかったと回答してくれた人が 60%程度いたことが報告された。自由筆記の内容は、次期の東北年会の担当者に渡す旨が述べられた。
  - 高校生の発表について  
13 件の発表があった。応募は予想より少なかった。賞状はすでに発送済みで、年会の Web ページには後日掲載予定である旨が報告された。

### 2. 2021 年度年会準備状況

- ・ 高橋聡氏より、2021 年度の年会の準備状況について報告された。
  - 11 月 25～27 日にオンサイトで行いたい。仙台国際センターを予約しているが、無料でキャンセルできるのは半年前までなので、4 月くらいにオンサイト、オンラインを判断する必要がある考えが述べられた。

### 3. 2022 年度年会準備状況

- ・ 金城政孝氏から 2022 年度年会準備状況が説明された。
  - 日程が 2022 年 9 月 28 日（水）～30 日（金）に決定されたことが報告された。

#### 4. 出版委員会報告

- 小松崎民樹氏より、出版委員会の報告が行われた。

##### (報 4-1)

##### ➤ 和文誌について

原稿の集まりが良い状況であり、1-2 月分は合わせて 70 頁になっている。高橋編集委員長のもと、ウイルス感染症に関する生物物理学的な特集、60 周年記念の座談会を 3 回に分けたものを企画している。座談会の企画では、方法の開発の過程を取り上げる予定であることが述べられた。ダイバーシティに関する特集号も企画しており、視覚障害の方の話、外国人からみた生物物理学会などを紹介する予定であることが述べられた。

##### ➤ BPPB (欧文誌) について

発刊状況が述べられ、12 月 4 日の時点で 21 編発刊され、1~2 編追加される予定である旨が述べられた。昨年は郷先生の傘寿特集 (全 51 編中の 32 編) があった。今年論文数が少ない状況であるため、積極的な投稿の呼びかけがあった。

##### ➤ J-STAGE Data について

論文に係るいろいろなデータ登録できるサービスであり、現在テスト期間中。現時点で、3つのデータ (分子動力学のトラジェクトリー、グラフの元データ、ムービー画像) を登録している状況である旨が述べられた。当初、日本語の内容は登録できないことになっていたが、現在はできる状況にある旨が述べられた。また、メタデータは英語で準備する必要があることが説明された。BPPB だけではなく、和文誌の方に関しても J-STAGE Data のシステムを活用いただきたい旨が述べられた。

##### ➤ BPPB の Web ページの改良について

Web ページの改良を行った旨が述べられた。

##### ➤ 科研費の中間報告書について

2020 年 10 月 15 日付で、科研費の中間報告書を提出したことが述べられた。中村春木編集委員長にご尽力いただき、BPPB の達成目標の達成状況を記載していただいた旨が報告された。査読から公開までの期間は、目標を達している (目標は平均で 90 日以内のところ、実際は平均 74 日となっている)。

この中間報告に関しては、JSPS からヒアリングなしという連絡があったことが報告された。

申請書に記述した bioRxiv との連携について、2020 年 11 月 5 日付で開始された旨が報告された。これにより、bioRxiv から BPPB への自動投稿が可能となる。同システムの活用が呼びかけられた。

##### (報 4-2)

➤ 第10回 BPPB 論文賞の公募について

会員個人による推薦、BPPB の編集委員からの推薦、支部からの推薦を開始する旨が報告された。推薦対象論文は 2014 年 1 月～2019 年 12 月に掲載された論文、締め切りは 2021 年 2 月 26 日であることが説明された。

(報 4-3)

➤ ウェブサイト編集委員会について

宮田真人編集委員長を軸に、BPPB 編集委員、和文誌編集委員からの参画があり精力的に活動している旨が説明された。邦文誌、BPPB 誌、SNS の活用、派遣講師、アウトリーチサイト「生物物理について」についての報告事項があった旨が説明された。他学会の動向調査も行った旨が報告された。情報発信の方法として、従来のウェブサイトだけではなく、SNS などいろいろな方法を活用していることが見えてきているので、それらを参照しながら有効なものは迅速に取り入れていきたい方向であることが述べられた。

## 5. 男女共同参画・若手支援委員会報告

- ・ 須藤雄気氏より、男女共同参画・若手支援委員会の報告があった。

➤ 年会に関わる行事の振り返り

第 58 回年会で行った若手奨励賞、若手招待講演賞、学生発表賞について、次号の「生物物理」に掲載される旨が説明された。

若手奨励賞シンポジウムは、審査員と理事しか参加できないクローズドの環境で行った。アカウント、セキュリティーの問題からだったが、講演を聞きたかったという声も多く、次回以降の検討事項となっていることが説明された。応募者数は漸減傾向である。

学生発表賞は、応募件数は心配していたより減らなかった。オンラインになったので、現地に行かなくてもよく、審査員を引き受けてもらいやすいという利点があったことが述べられた。

➤ 生物科学学会連合（生科連）について

学会アンケートをとると、政府への提言を希望する声があるが、一学会として行うのは難しいため、生物物理学会では、生科連や男女共同参画学協会連絡会等を通して行っている旨が説明された。

生科連の定例会議（2020 年 11 月 13 日）に参加した村田武士氏・須藤雄気氏の報告があり、日本学術会議についての声明について時間が割かれたことが説明された。生科連の声明の要点は「強い反対、賛成の意見ではなく、問題が起こっているので、お互いに解決してください」といった趣旨である。会員全員に諮る時間的な余裕がなかったため、理事審議を経て生科連の声明に連名した。

そのほか、生科連の収支報告、若手研究者育成のための大学院生を中心とした支援の要望（案）、経済的な支援を要望するなどの活動について報告があった。

また、政府に提言するための大型研究計画に関するマスタープランを作ることにしても活動している旨が説明された（生物物理学会では、次世代統合バイオイメージング研究所を提案）。

➤ 若手の会アンケートの結果報告について

若手の会のアンケート結果を受け取り、COVID-19の影響なども含めて、若手が今考えていることを反映した内容になっていることが述べられた。若手の会は、他の学会の若手の会とも連携して精力的に活動しており、有用な情報である。博士後期課程は経済的に苦しい実情がある。特に今年は COVID-19 の影響もありアルバイトができず、生活が苦しく、研究に支障が出てきている現状が報告されている。この結果に基づき、若手の会から、生物物理学会の奨学金制度設立の要望があった。男女若手委員会で議論を進めていく方向である旨が説明された。

## 6. 国際関連委員会報告

- 西坂崇之氏より、国際関連委員会報告があった。

➤ 国際ジョイントシンポジウムを2件開催したことについて

1つは群馬年会で中国と、もう1つは The ASB meeting で豪と行った。中国と豪ともに非常に積極的であった旨が説明された。詳細は資料①（中国）、資料②（豪）にあり。

➤ The ASB meeting（豪の生物物理学会）について

Zoom 開催で無料であったため、日本生物物理学会の全体に参加を促すメールを配布した。結果として、日本生物物理学会からは76名の登録があった。

➤ IUPAB について

2023年に京都で開催される予定であったが、24年に延期された。国際関連委員会のメインの仕事であるが、コロナ禍であるため進んでいない状況であることが説明された。1年延期され、2021年に開催予定であるブラジル（イグアス）での大会についての続報は今のところ入っていない。

## 7. 賞・助成金推薦委員会報告（須藤）：報7

- 須藤雄気氏より、賞・助成金推薦委員会報告があった。

第58回年会で、会員向けに賞の意義を説明できたこと、受賞された野地氏、神取氏にお話いただいたことは、よい企画であったとの考えが述べられた。

推薦結果の進展としては、加藤英明氏が島津奨励賞を受賞した。賞・助成金の推薦は継続していくので、学会員がいろいろと受賞することで、学会のプレゼンスを向上させることが、学会に重要である旨が説明された。

## 8. 地区報告

中国・四国支部（須藤雄気氏）

毎年支部会を4月か5月に開催しているが、今年は中止とした。来年度以降はオンラインの可能性も含めて考えていきたいが、Zoomのアカウントが問題になる。中国・四国地方は、小規模の大学が多く、アカウントを持っていない。学会のアカウントを利用することは可能だろうかとの質問があり、原田氏より可能との回答があった。

- 東北支部（田中良和氏）

東北支部は、支部会を北海道支部と合同で3月8日にオンライン開催することが決定していることが報告された。現在、演題募集中だが、演題が確定した時点で、オンラインのため参加は自由であることを全会員に向けてアナウンスしたいという旨が説明された。

- 中部支部（秋山修志氏）

中部支部は、3月31日にオンラインで開催予定であることが報告された。

その他：

原田慶恵氏より、2023年度の年会について、神取秀樹氏が年会長を引き受けてくださったことの報告があった。場所は未定だが、名古屋地区が担当となる。その次の年が京都でIUPABの予定である。

## 審議事項:

### 1. 次期編集委員長候補・2021・22年会誌編集委員候補の承認

- 小松崎民樹氏より、次期編集委員長候補・2021・22年会誌編集委員候補について、以下のように説明があり、質疑応答を経ていずれも承認された。
  - 和文誌の次期会誌編集委員長の候補について  
出版委員会で検討した結果、候補者として、1. 上田昌宏氏、2. 由良敬氏、3. 秋山修志氏を上申する。
  - 2021・22年会誌編集委員候補について  
出版委員会で検討した結果、候補者として、岡崎圭一氏、柴田幹大氏、角田聡氏、丹羽達也氏、松浦友亮氏、宮崎牧人氏を上申する。

### 2. 2021年分野別専門委員の承認

- 小松崎民樹氏より、2021年分野別専門委員の候補者および分野の改廃について説明があり、質疑応答を経て承認された。
  - 追加：D-46：光マニピュレーション
  - 廃止：D-20：音波・超音波、E-09：機能ゲノム科学、E-22：タンパク質品質管理  
(6年連続で委員の推薦がなかったため)

### 3. 2021年度事業計画（案）

- 原田慶恵氏より、2021年度事業計画（案）について説明があった。4月の理事会において最終決定する。

### 4. 2021年度予算（原案）

- 秋山修志氏より、2021年度予算（原案）について説明があった。  
事業計画と照らし合わせて変更がない場合は指摘してもらう必要はないが、増える場合や減る場合も大きく予算規模が変わる場合は指摘してほしい旨が説明された。4月の理事会において最終決定する。

### 5. 出版委員会関連議題

- 小松崎民樹氏より、出版委員会関連議題について、以下のように説明があり、質疑応答を経て承認された。
  - BPPB誌の倫理に関する審議事項について  
夏頃、米国の研究者からBPPBのEditorと対象の論文著者あてにクレームがあった。このクレームへの対応についての報告の後、今後の対策について審議が行われた。
    - Instructions for Authorsに“new”，“novel”，“first”，“unprecedented”などといったpositive wordsを論文titleやabstractに記載しないようにすることを記載する。ただし、



投稿時の Cover letter については禁じない。

・ Editorial の記事の著者は、今後とも「担当 Editor, 出版委員長、BPPB 編集委員長」を候補とし、担当 Editor に候補から選択していただく。

➤ その他の投稿規定の変更について

(1) BioRxiv から BPPB への自動投稿について、“How to Submit a Manuscript” に追記してよいか、(2) PDB データ引用について、wwPDB からの要請に伴い Manuscript のスタイル欄に追記してよいかについて審議の依頼があった。

→特に意見はなく、承認された。

➤ ScholarOne Manuscript (S1M) のカテゴリ情報の更新について

BPPB の立場からすると、分野別専門委員会は論文の査読時にどの分野にどの専門家ががいるかの情報を入手するのに有用である旨が述べられた。ScholarOne Manuscript (S1M) のカテゴリ情報の更新方法を審議したい。更新方法にはいろいろなパターンが想定されるが、基本的には現状のカテゴリーリストから分野別専門委員に本人の専門分野として選んでいただき、対応するものがない場合には、英語でその分野を記載していただくことが簡単である。その場合、表記ゆれなどの問題により検索精度が落ちることが予想される。最終的には、中西印刷と編集委員で整理する案に落ち着いた旨が説明された。

→特に異議なく、承認された。

➤ BPPB web page の更新自動化について

J-STAGE Alert のメールを受け取り次第、論文情報をニュースとして Web page に掲載するシステム (BPPB の早期公開にも対応) を作りたい旨が説明された。そのために、プラグイン社からシステムの提案と見積書 (33 万円) の提示があった旨が説明された。

→特に異議なく、承認された。

➤ ウェブサイト編集委員会

次期委員長の第一候補として、飯野亮太氏の内諾を得ている旨が説明された。ウェブサイト編集委員である白井委員の交代について、第一候補の古田氏、第二候補の森本氏、第三候補の若林氏の順で打診していく予定であることが説明された。

→特に異議なく、承認された。

6. 分子科学研究所学会等連絡会議構成員推薦について

- ・ 分子科学研究所学会等連絡会議構成員推薦について説明があり、質疑応答を経て、候補

者である小松崎氏か高橋氏で相談して、1月29日までに決めることになった。

#### 7. 国際物理オリンピックからの寄付依頼について

- ・ 原田慶恵氏より、国際物理オリンピックからの寄付依頼について説明があり、質疑応答を経て、今回は寄付を見送り、情報収集に努めることになった。

#### 8. 功労会員・終身会員の 신설について

- ・ 上久保裕生氏より、功労会員・終身会員の 신설について、以下のように説明があり、質疑応答を経て、2月の理事会までに、終身会員になるための学会所属年数による財務への影響を試算した結果を準備することになった。

会員数が漸減傾向のため、退職後の先生方にも継続いただきたいということが設置の意図。

名誉会員の推薦規定にあった“学会で重要な役職を務めた”という部分を功労会員のものとする。功労会員の推薦規定は、年会の実行委員長、編集員長を務められた方、副会長、理事、監事等、学会の運営を長年経験された方を対象とする。

終身会員は、満65歳以上で通算20年以上会員である方を対象とする。理事会で承認された場合、それ以降の年度の会費が終身免除される。

#### 9. 生物物理サブグループについて

- ・ 須藤雄気氏より、生物物理サブグループについて、以下のように説明があり、質疑応答を経て承認された。

開始時期は、COVID-19 のこともあって、しばらくペンディングになっていた。2021年1月に募集を開始、3月に申請を締め切り、男女・若手支援委員会で議論したのち、4月の理事会で審議して決定するという流れ。予算は110万円。1件当たり5万円で最大20件、ウェブ更新費が10万円。

→特に意見はなく、上記スケジュールで進めることが決定された。

#### その他

特になし

#### 連絡事項

原田慶恵氏より、次回理事会（2020年度第4回理事会。2月予定）について、近日中に日程調整を行う旨の連絡があった。

その他の発議を求めたところ、格別なしと認められたので、議長は16:55に閉会を宣言して散会した。

上記の議決を明確にするため、定款第六章第三十三条の規定によりこの議事録を作成し、代表理事及び監事が次に記名押印する。

2020年12月19日

一般社団法人 日本生物物理学会 2020年度第3理事会

代表理事	原 田 慶 恵 (印)
監事	笹 井 理 生 (印)
監事	豊 島 陽 子 (印)